

第 1 2 回薩摩川内市行政改革推進委員会及び答申 会議録

1 開催日時 平成 2 5 年 1 1 月 2 5 日 (月) 1 3 : 3 0 ~ 1 6 : 1 5

2 開催場所 薩摩川内市役所 6 0 4 会議室

3 出席者

- (1) 委 員 吉満会長、三本副会長、山本 (豪) 委員、徳丸委員、鍋倉委員、
山本 (文) 委員、初田委員
- (2) 事務局 知識副市長、企画政策部長、行政改革推進課長、同課長代理、
同課行政改革グループ員
- (3) 傍聴者 なし

4 第 1 2 回委員会

(1) 日程説明

○課長 本日は、この後、事前に配布してある報告書 (案) を使い、事務事業外部評価の取りまとめを行う。この取りまとめを 2 時間程度、1 5 時 3 0 分を目途に行う。その後、1 6 時からこの場で知識副市長に対し、答申を行う。

○課長代理 取りまとめに入る。

(2) 取りまとめ

○課長 報告書の表紙から 9 ページ及び最終ページについては、事務局から説明し、ここままで一旦ご意見をいただく。

その後、個別の評価結果の確認及び報告書案の採決については、吉満会長の進行で会議を進める。

(資料に基づき、説明)

○会長 ご説明いただいた。

これまでの委員会について、事務局で文章にまとめたものである。本年度から補助金評価も含まれていることや委員が実際に発言された内容等が引用されている部分もあった。ご意見等ないか。

ご意見がないようなので、ここまでの部分については、事務局案のとおりとする。個別の評価結果に入る。

これまで、それぞれの事務事業の外部評価では、最後に委員の皆様と一緒に評価結果について確認してきた。その都度、事務局で取りまとめたものを委員にお配りしている。今回、報告書として取りまとめ前に自分なりに精査し、事務局と打ち合わせを行った結果、評価を変えた部分もある。その部分の説明も含め、事務事業を 1 件ずつ再度確認していきたい。

(事務事業ごとに審議内容や結論に至った経緯等を振り返り、委員に再確認した。)

(事務事業番号 1 から 6 まで、評価結果に変更がないため省略)

○会長 事務事業番号７の清掃総務一般管理事業について、当初事務事業及び各補助金とも「現状のまま継続」としていたが、当委員会から出されている意見等を考えると、「見直しの上で継続」が妥当であると思う。各補助金については、現状維持となっている状況に一石を投じ、検討を促すために「補助内容の改善」としたい。それに合わせて、事務事業も「手段の改善」としたい。

ご意見ないか。

○委員 異議なし。

○会長 では、清掃総務一般管理事業は「見直しの上で継続（手段の改善）」、２つの補助金については「見直しの上で継続（補助内容の改善）」とする。

（事務事業番号８から１８まで、評価結果に変更がないため省略）

○会長 事務事業番号１９の水産振興事業について、補助金番号１９－７の甑島水産観光促進補助金の外部評価結果を当初は「現状のまま継続」としていた。評価の過程においては、事業費１千万円以上が補助の対象では、使い勝手が悪く、使う人がいない、または限られた一部の人しか使えないという意見が出ていた。よって、「補助内容の改善」としたいが、ご意見ないか。

○委員 異議なし。

○会長 では、補助金番号１９－７の甑島水産観光促進補助金については、「見直しの上で継続（補助内容の改善）」に評価結果を修正する。事務事業及び同事務事業内のその他の補助金については、以前の評価結果のままとする。

○会長 事務事業番号２０の土地改良区運営補助金事務事業について、当初は事務事業及び各補助金とも「手段の改善」や「補助内容の改善」とし、改善を求めることにしていたが、評価の過程で委員から出された意見や繰越金が年々増えている現状等を考えると、もう少し踏み込んだ評価が必要であると思う。よって、事務事業及び各補助金の評価を「縮小」に修正したいが、ご意見はないか。

○委員 事務事業及び補助金番号２０－２については、「縮小」で問題ないと思う。補助金番号２０－１については、他と少し性格が違う。生活排水混入のため農業用水の必要ない時期にも通水しており、費用については土地改良区が６０％を負担している。農業に要していない時期の管理ということを考えると「現状のまま継続」で良いと思う。

また、まとめの欄に記載してある事項については、補助金番号２０－２に対する意見であったと思う。

○会長 ご意見をいただいたが、他の委員からはないか。

○委員 今の意見に賛同する。

○会長 では、補助金番号２０－１については、「現状のまま継続」とし、まとめの欄は「特になし。」にする。また、補助金番号２０－２にコメントを追加してよろしいか。

○委員 異議なし。

（事務事業番号２１から２９まで、評価結果に変更がないため省略）

○**会長** 事務事業番号３０、非常備消防一般管理事業については、当初、事務事業並びに２つの補助金において、「現状のまま継続」としていた。

消防団分団運営補助金については、分団並びにその母体となる消防後援会の資産状況を把握していない実態があることから、ここでも一石を投じる必要があると判断し、今後の改革の方向性を「見直しの上で継続（補助内容の改善）」に修正することを今回ご提案したい。

ご意見等ないか。

○**委員** 後援会によっては、自助努力をすることで資産を増やしている所がある。そういった部分は、加味していく必要がある。

○**会長** 地域的な特性はあると思うが、補助金である以上、自立できるところは自立を促していきたい。

地域的な特性を加味しながら、補助金を管理する主管課を指摘する意味で、少し踏み込んだ評価としたい。

○**委員** 異議なし。

○**会長** では、事務事業及び補助金番号３０－１は「現状のまま継続」、補助金番号３０－２は「見直しの上で継続（補助内容の改善）」とする。

（事務事業番号３１と３２は、評価結果に変更がないため省略）

○**会長** 事務事業番号３３、社会教育団体運営補助金事業については、当初、事務事業並びに２つの補助金において、「現状のまま継続」としていた。何かご意見ないか。

○**委員** まとめ欄の記述では、減額された補助金に合わせて事業を縮小して進めるようにと誤解される。表現を改めてはどうか。

○**会長** ここでは、補助金は減額されたものの事業の内容や量を縮小せず、事業を継続している旨の説明が主管課からあった。

引き続き、青少年の健全育成に努めてほしいと意見を付ける。

他に、ご意見ないか。

○**委員** 異議なし。

○**会長** では、まとめ欄を修正し、事務事業番号３３の評価とする。

○**会長** 事務事業番号３４、文化振興補助金事業については、４つの補助金がある。うち、３補助金の外部評価については「現状のまま継続」としたが、補助金番号３４－４の国際青少年音楽祭開催事業補助金については、同事務事業内の補助金である市民まちづくり公社文化事業推進補助金に統合するという評価結果になっていた。これを受け、事務事業の評価を「見直しの上で継続（他の事業と統合）」とされていたが、同事業内における補助金の統合であることから、手段の改善に改めたいが、委員のご意見はないか。

○**委員** 異議なし。

○**会長** では、事務事業の評価を「見直しの上で継続（手段の改善）」に修正する。

(事務事業番号 35 と 36 は、評価結果に変更がないため省略)

○**会長** 36 事務事業と附随する補助金について、全て確認した。

(変更した部分を再度読み上げる。)

全体を通して、何か意見はないか。

○**委員** 委員会で出された質問の回答は、早急に出してほしい。

○**会長** 事務局の対応をお願いします。

他にないか。初田委員からの意見はなかったか。

○**事務局** 事前に、初田委員と梶原委員に問い合わせたが、ご意見はなかった。
会長に一任するとのことだった。

○**会長** 過去 9 回の外部評価を振返った。時間の関係で駆け足となったが、以上をもって報告書の取りまとめとする。

委員の皆様には、多くの意見をいただいた。感謝する。

以上で、取りまとめを終了する。

(3) 事務連絡等

○**課長代理** 事務局から何かあるか。

○**課長** 長時間にわたり熱心にご審議いただいた。ここで企画政策部長がお礼を述べる。

○**部長** 16 時から答申もあるが、この会を閉じるにあたり一言お礼を申し上げる。

先ずは、吉満会長におかれては、約 1 時間に渡り、進行から資料の説明、取りまとめまで大変お疲れ様でした。また、会長、副会長をはじめとする委員の皆様には、本日まで 12 回に渡り、密度の濃い評価をしていただいた。本年度から従前の事務事業評価に加え、補助金の評価もお願いすることになり、大変なボリュームとなったが、皆様のご協力をいただき、本日を迎えることができた。お礼申し上げます。

36 の事務事業と 68 の補助金について、一部評価結果を修正して取りまとめていただいた。現状維持となっているものに一石を投じて職員の後押しをするもの、使い勝手の悪い補助金を見直すというものなど大変ありがたい意見をいただいた。

本日までご審議いただき、この後答申していただくが、いただいた意見や評価結果は、今後の予算編成や事務事業を推進する上で反映していきたい。

12 回に渡る委員会の中では、主管課の説明不足や準備不足があったことをこの場でお詫びする。

最後になるが、年内の会議は本日で終わりである。年明けには、今回評価していただいた事務事業等を、主管課がどのように考え、新しい年度の予算に反映したのかご報告したいと思う。

本年もあと 1 箇月である。この 1 年大変お世話になった。お礼を申し上げます。

○**課長** この後、16 時からこの場所で答申を行う。準備するので、一旦会を閉じる。15 時 55 分までは、休憩とする。

○**課長代理** 以上をもって、第 12 回行政改革推進委員会を終了する。

5 答申

(1) 吉満会長から知識副市長へ答申を手交

(2) 市長あいさつ

○知識副市長 市長公務のため、代読する。

事務事業外部評価等の答申にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方におかれては、かねてから、本委員会にとどまらず、市政の発展のために、それぞれの立場でご尽力いただいております、深く感謝申し上げます。

さきほど、外部評価の答申をいただいた。

吉満会長を始めとする委員の皆様には、半年以上にわたり、大変ご多忙の中、評価作業を実施いただき、改めてお礼申し上げます。

答申いただいた内容については、平成26年度当初予算への反映はもとより、直ちに反映が難しいものについても、引き続き、必要な調整等を行いながら、答申結果を反映できるよう取り組んでいく所存である。

今後も外部評価を進めることで、外部評価の目的である事務事業及び補助金の整理・合理化を実現し、スピーディで質の高い市民サービスの提供及び行政活動の透明性の向上などに繋げていきたいと考えている。

最後になるが、委員の皆様方には、今後とも薩摩川内市のまちづくりのために、御理解と御協力を賜るよう心からお願い申し上げ、挨拶に代えさせていただく。